

# THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区  
木更津東ロータリークラブ  
2020-21 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111  
●事務局 木更津市東中央 3-5-2 第 2 三幸ビル 101 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2020-21 年度国際ロータリーテーマ

## ロータリーは機会の扉を開く ROTARY OPENS OPPORTUNITIES

第 6 回 例会 NO. 2497 2020 年 9 月 9 日 (水)



私の旅シリーズ『イタリア シエナのカンポ広場』 撮影者：藤野宏治会員

### ■司会進行

内田稔 S. A. A



### ◆点鐘

松岡邦佳会長  
12時30分

### ◆国歌斉唱

### ◆Rソング「我等の生業」

### ◆出席

会員 44名  
出席 30名  
欠席 14名

### ◆出席率

75.60%

### ◆前々回出席率

69.44%

### ◆修正後出席率

86.11%

### ◆欠席者【敬称略】

石井文子・叶川博章・小林千晃・小林裕治・  
塚本秀夫・鶴岡大治・林田謙志・堀内正人・  
倉島和広



### ◆四つのテスト

会員増強研修委員会  
石田亨委員



### ◆結婚祝い

阪中昌司 (9/8)



### ◆メイクアップ【敬称略】

・9/2 第3回理事会

松岡邦佳・近藤直弘・山田修平・  
吉田和義・石田亨・渡辺元貴・  
渡邊慎司・加藤智生・堀内正人・  
佐藤文夫

・9/12 地区財団セミナー 堀内正人

・8/8 // RLIパートII 山田修平

・9/7 // RLIパートIII 山田修平

ホームページ <https://kisarazueast-rc.jp>

木更津東ロータリークラブ

国際ロータリー第 2790 地区

会 長 松 岡 邦 佳  
幹 事 近 藤 直 弘  
編 集 藤 野 宏 治

RI 会 長 ホルガー・クナーク  
地区ガバナー 漆 原 摂 子  
ガバナー補佐 窪 田 謙

## ■会長挨拶・報告

松岡邦住会長

皆様こんにちは。  
まずは、先週の理事会などで決定された今後の日程について報告させていただきます。



・10月7日 2500回記念式典祝賀会  
・10月14日 坂出東RCとの合同例会  
・10月21日 通常例会  
・11月20日 ガバナー公式訪問例会  
と変更になっております。  
さて、今月は基本的教育と識字率向上月間です。  
日本の識字率は99%と言われ（おそらく100%に近いと思われます）9年間の義務教育があることから、私もそうですがあまりこの問題にピンとこないという方が多いと思われまます。  
世界に目をむけてみますと、識字率が現段階でも20%台、またそもそも子供を通わせる学校がない、学校があっても子供を学校に通わせることができない国や地域はまだたくさんあり、ロータリークラブでも識字率向上のための事業を行っています。

## ■幹事報告

近藤直弘幹事



### ◆第3回理事会報告

#### ◇審議事項

- ① 2020年7月・8月度収支報告の件  
➡承認されました。
- ② ガバナー公式訪問（富津シティとの合同）の件  
➡承認されました。
- ③ 年間計画変更の件  
➡承認されました。
- ④ 2500回記念式典祝賀会の件  
➡承認されました。
- ⑤ 坂出東RCとの合同例会の件  
➡承認されました。
- ⑥ 2022年規定審議会へのクラブから提案する制定案の件  
➡承認されました。

#### ◇報告事項

##### 1. 幹事報告

- ① ガバナーセレクトより『活動計画書送付のお礼』が届いておりますので回覧致します。

##### 2. 他クラブからのお知らせ

- ① 袖ヶ浦RC・富津中央RCより『週報』が届いておりますので回覧致します。
- ② 富津シティRCより『例会変更のお知らせ』が届いておりますので回覧致します。

##### 3. 回覧

- ① 袖ヶ浦RC・富津中央RCより『週報』
- ② シティRCより『例会変更のお知らせ』

## ■委員会報告

### ◆ゴルフ愛好会より

坂井健治会員



- ・入会費10,000円を9月15日までに振り込んで下さい。
- ・総会を9月25日、18時より東洋で行います。
- ・第一回松岡会長杯を10月20日に、木更津ゴルフクラブで開催します。

### ◆内田重会員より

FELLOWSHIPとS.A.Aのたすきを中野麻美会員がほつれを直し、洗濯してくれたので、ご披露します。

### ◆ニコニコボックス

出席・ニコニコ・報告委員会  
佐藤文夫会員



### ◇阪中昌司会員

ステキな花を頂きありがとうございます。  
丁度30年・真珠婚になります。

## ■例会アワー

### ◆卓話 林孝二郎会員



『アフターコロナ社会について思うこと』

新型コロナウイルスの脅威によって、緊急事態宣言が出され日常生活が様変わりしたり経済が著しくマヒするなど大きな影響が出ております。私どもの宿泊業など観光関連産業も悪戦苦闘をしております。いろいろな批判もされているGO TOトラベル事業はどん底状態の観光産業へのテコ入れとして少しずつ効果が出てきておりますが、現在も感染拡大の第2波が来ているということがいわれていて、これがどんな形で収束していくのかまだ予測がつかない状況です。

コロナの脅威が落ち着いた後のアフターコロナの時代はコロナ以前の社会とは大きく様変わりするといわれています。今回の新型コロナウイルスによるパンデミックは世界中でこれまでの産業や人々の生活の在り方に変化を促しております。日本の社会は急激な変革を好まない傾向があり、これまでも黒船来航や太平洋戦争の敗戦といった外からの圧力で大きく変わってきたという歴史がありますので、今回のパンデミックが良い意味で日本を変える外圧となればとの期待もあります。このピンチをこれまで変えたくとも変えられなかった様々な課題にチャレンジし変えていくチャンスととらえていくことが大事かと思えます。一つは、ITの発達した現代において、古い旧来の仕組みがIT技術の活用を阻んでいるということがクローズアップされました。医療の面ではオンライン診療ができない。教育の面ではオンライン学習が普及していない。ビジネスや役所の仕事の中ではハンコ決済に代表されるように古い仕組みに縛られて

仕事の効率が甚だ悪いなどなどです。今回緊急事態ということで変化の兆しがありますので、これが今後定着していくことが期待されます。これは全国的に起こる変化であり、木更津でも対応していくことになるでしょう。先週のクラブ例会では藤野会員がリモート参加しましたがわがロータリークラブにも変化をもたらすでしょうか。

2つ目に取り上げたいのは人々の生活の姿の変化です。コロナで在宅勤務やテレワークが増えた影響で「自分の時間・家族と過ごす時間が増えた」というアンケート結果が出ております。これは、特に通勤に多くの時間をかけていた首都圏の近郊の都市に住む人々に顕著かと思えます。私の千葉市内の自宅周辺でもこれまで見かけなかった若い親子が公園で遊ぶ姿を多く見かけました。これまで近郊の都市から1時間から2時間かけて都心に通っていた人たちが通勤時間に費やしていた時間を自宅周辺で家族とともに過ごす時間に換えることができた結果だろうと思えます。これが定着すれば、特に平日の時間消費に大きな変化が見込まれ、居住地域での趣味の会やコミュニティ活動が活発になり、これまであまり地域に関心のなかった若手の人々も地域とかかわることにより、より生き生きとした、災害にも強いコミュニティになっていくことが期待できます。また、テレワークが増えることにより、運動不足解消のニーズが高まり、スポーツクラブや大規模公園での運動を求める人が増えるでしょう。健康維持のため1日に1時間ほどのウォーキングがおすすめですが、今回、私も自宅からのウォーキングコースを作りました。海を見るコース、川辺に行くコース、大きな公園を散策するコース、面白い建物を発見できる住宅街をめぐるコースなどです。これらはすべてこれまでもそこにあったものです。近隣の良いところを使わずにこれまで生活してきたということです。長いこと住んでいる私にとっても新しい発見があるのですが、若い人たちの中には住宅を求めて住み着いて、家と働き場を往復する毎日を過ごしてきた人が多いと思えますので、家の周辺の良さを発見する機会はさらに多いかと思えます。

また人々の生活時間の変化により消費の郊外へのシフトが起こると思えますが、これは量だけではなく質の面でも都心で提供されていたしゃれたカフェやおいしいレストランなど高質のサービスが郊外都市でも求められるようになると思えます。これらの変化は住宅地としての木更津をより魅力的にしていくでしょう。

3つ目はテレワークの普及と住宅やオフィス機能の立地への影響について触れたいと思えます。テレワークでの課題として、会社側には仕事の成果評価が難しいとかリモートでコミュニケーションがとりにくいとかの課題が指摘されておりますが、ウィルス対策として通勤時や職場での感染の恐れから都心に立地する多くの企業で取り入れられてきています。やってみるとテレワークで問題ないとか、かえって効率が良くなったという企業も多く、コロナが終息した後もテレワークは一定程度定着すると思えます。一方、テレワークをする人にとってのメリットは多いのですが、「自宅でのオンオフの切り替えが難しい」、「自宅では仕事をするのに適した場所がない」など都心に近い現在の住宅では、家が狭く働く場所を十分に取れない悩みがあるようです。そういうことを反映してでしょう。最近の住宅市場調査で面白いニュースがありました。リクルート住まいカンパニーの不動産物件情報サイトSUUMOの中古一戸建て住宅の閲覧数において人気の都市として木更津市が上がっています。2020年1月を100として5月には220と2倍以上に閲覧数が伸びており、首都圏では伸び率ナンバー1です。6月の伸び率も含めて上位5位に入っているのは、木更津市の他、館山市、富津市、千葉市緑区、同美浜区、神奈川県葉山町、逗子市などです。広めの住まいを、リーズナブルな価格で、自然の多い近郊外に求める選択が今後増えるのではないかと期待されます。一方で、テレワークが進んでも、多くのケースでは1週間に一度位は会社に出社し、フェイスツウフェイスのコミュニケーションが必要と思われるため、遠すぎる場所は選択しにくいということもあると思えます。いづれにしても、住む場所の選択の際に通勤時間を含め勤務地への接近性はそれほど重要でなくなり、その街の安全性や快適性が大事になっていくのは確かと思えます。木更津の位置は移住地や2つ目の住宅地として最適だろうと思えますので、歴史、文化、スポーツなどに厚みを加え、選ばれる都市を目指すことが大事かと思えます。

また、テレワーク場所として自宅周辺でのサテライトオフィスや他の人と共同で使うコワーキングオフィスなどの需要が増えてきており、木更津市でもホテルの部屋をテレワークで使う場合に補助をする制度を作っております。

次に、働く場所としてのオフィスの立地についてはどんな変化が出てくるのでしょうか。テレワークの普及により、都心オフィスのスペースを削減したという企業も出てきており、特にIT関連企業とかのベンチャーでは顕著なようですが、都心のオフィス床の賃料が下がったということには今のところなっていないようです。まだテレワークの活用について多くの企業が様子見というところかと思えます。

ご存知の方もいると思いますが、木更津市は国により業務核都市と位置付けられております。かずさアカデミアパークもその事業の一環として作られましたが、当初期待していたようには業務機能は多



く立地しておりません。業務核都市は東京の一極集中を改善するためにつくられた制度ですが、現在のところ、成功したとはなかなか言えないと思います。テレワークの普及が木更津市など業務核都市の街づくりにこれからどんな影響を与えるか今後じっくりと見ていきたいと思っています。

最後になりますが、東京一極集中の問題が今回のコロナの関係で改めて浮き彫りになりましたので、このことについて触れてみたいと思います。

東京の過密問題、一極集中の問題は我が国の長い間の懸案事項でした。

第2次大戦後、まず工場や大学が集中しすぎることが問題となり工業等規制法が制定されました。これにより工場は首都圏の近郊に立地するほか、全国の工業基地や工業団地にも広く分散することになりました。また、大学も都心立地を禁じられ郊外都市に移転や拡張を求めました。工業の分散政策は成功をおさめ、地方の振興にも大いに効果を発揮しました。研究機能の分散施策も実施にされました。国の研究機関が東京都心に多数立地していたため、これを郊外の筑波研究学園都市に移す試みで、移転する研究機関の職員や家族の強い抵抗があり長い時間がかかりましたが実現いたしました。時代が移り、1980年ごろから大都市への集中の原因が第2次産業から第3次産業、特に中枢管理業務機能に移ってきたことを背景に、関西や名古屋への人口集中は治まり東京への一極集中が顕著になります。そのため、集中を抑制する対象も事務所機能へと移っていきました。対策として取られたのが近郊の主要都市、横浜や千葉、さいたま、立川等への業務機能の移転です。業務核都市を整備し、MM21や幕張新都心といった業務機能の受け皿づくりを進めました。木更津のアカデミアパークもその一つです。残念ながら工場の分散施策と違ったのは事務所の都心立地を法律や税制で規制する具体的手段がとられなかったため、分散は市場メカニズムによるしかなく、当初業務核都市に移転した本社機能等がバブル経済の崩壊で地価が低落したため都心に戻るといった都心回帰現象が起きたのは周知のとおりです。一定の成果を上げたのは国の機関の移転で、民間の関東支店にあたる地方支局、例えば関東地方建設局や関東財務局などが大手町からさいたま新都心に移るなど成果を上げております。一方、本社にあたる霞が関の中央省庁の移転については首都機能移転のための法律を作り移転候補地を福島や岐阜など複数選定するところまで行きましたが、そのあとはなかなか進みませんでした。

顧みて東京の過密や過大は、公害等の環境問題、住宅の不足、通勤地獄などにより大きな問題となっておりましたが、技術の進歩、地価の沈静化、交通機関の発達などにより改善が著しく近年はかつてほど取り上げられなくなった感がありました。逆に、香港、上海、シンガポール等のアジアの諸都市に比べ、日本経済をけん引する東京の力に陰りが見えることが問題視されることの方が多くなり、国は世界都市東京の力をより強くする政策をとるようになったと感じています。ここにきて、東京一極集中問題が再び大きく取り上げられるようになった背景には、新型コロナウイルスの感染拡大のほか、最近頻発する地震や台風など大災害による被害発生が現実味を帯びてきて、日本の社会・経済に及ぼす一極集中のリスクが強く認識されるようになったことがあると思います。また、人口減少局面に入った我が国において一極集中が地方の疲弊を招いているという危機感もあると思います。現在行われている自民党の総裁選挙においても、各候補とも東京一極集中の是正を政策課題に掲げていますが、具体的な方策はどんなものが出てくるのでしょうか。

東京都心に立地する機能を東京圏域以外の地域に移すという急進的、ドラスティックな施策は首都圏以外の全国の道府県からは歓迎されるかと思いますが、実現にはかなり困難があるかと思いますが。先日、パソナという会社が東京都心の本社機能の大部分（1200人）を兵庫県の淡路島に移転するというニュースが飛び込んできましたが（創業者が兵庫県出身ということですが）、このような例がこれから多くなるかといえば疑問です。なぜかといえば、事務所の立地を法律や税制で、直接制限することはこれまでの経験から見てむずかしいこと、また、現在、東京で働く人たちの多くが東京（東京都の隣接県を含む）生まれの東京育ちであり、会社や省庁の移転に伴う東京圏を離れての移住には抵抗が多いと思います。実際、安倍政権にあっても国の中央省庁の移転を重要施策として進めましたが、結果としては文化庁の京都への移転だけに終わりそうです。

こういったことから、地方への機能移転に加えて、東京都心から東京近郊の諸都市へ機能分散し東京都心の過密を解消していくという業務核都市の考え方はこれからさらに重要性を増していくと思います。

横浜、千葉、木更津など近郊の諸都市が頑張って東京圏の地域構造を変えていくことにより国のリスクを少なくしていくことが大変重要だと思います。

アフターコロナの社会がどう変わっていくのか、まだまだ確かなことは言えないのですが、今起こりつつあることが今後、木更津の街づくりに、そして東京およびその周辺の地域にどんな影響を与えるか、「こうなって欲しいな」という私の期待も含めてお話いたしました。

◆点鐘

松岡邦佳会長

木更津東ロータリークラブ事務局メールアドレス [eastkisarazu-rc@nifty.com](mailto:eastkisarazu-rc@nifty.com)